

ごあいさつ



公立大学法人富山県立大学 学長 下山 勲

富山県立大学は、科学技術の振興と地域産業の発展に寄与することを目的に創設された「富山県立大谷技術短期大学」を起源とし、経済界等からの熱い期待を受けて、平成2年に開学しました。以来30年が経過し、この間、地域の知の拠点として、新しい高度な技術の創造に熱意を持つ、「工学心」あふれる若いエンジニアやリサーチャーを数多く育成、輩出してきました。

近年では、平成27年4月の公立大学法人化に伴い、県内産業への人材供給と若者の定着に貢献し、一層魅力ある大学となるよう学科拡充に取り組んできました。

具体的には、平成28年4月に、複合材料、ロボット分野を拡充するため、機械システム工学科及び知能デザイン工学科の拡充を行い、平成29年4月には、全国でも初となる、医薬品の製造・開発などを研究する「医薬品工学科」を新設しました。平成30年4月には、「知能デザイン工学科」を「知能ロボット工学科」に名称変更し、ロボット関連分野を強化しました。そして、平成31年4月には、工学系単科大学から脱皮し、新たに富山キャンパスに看護学部を開設して、医療・看護分野においても有用な人材を育成していきます。そして、今年の4月からは、「電子・情報工学科」を「電気電子工学科」と「情報システム工学科」の2学科に再編拡充するとともに、射水キャンパスには新たな校舎が完成し、大学の施設をより一層充実させました。

このような本学が今日あるのは、創設準備室開設以来今日まで、大学としての基盤を固め、大学の教育、研究、地域貢献、大学運営の各活動を実体化することに心血を注いでこられた多数の方々のおかげであります。私どもはこの30年を振り返り、今後とも地域の知の拠点として、創造力と実践力を兼ね備えた人材の育成や高度な研究開発、さらに地域産業の連携により、魅力ある大学として、「ドンドン マスマス」発展していきます。